

★学校教育目標 「未来を創造する子」 ◎自ら考え学ぶ子（重点目標） ○思いやる心をもち、共に生きる子 ○健康でたくましい子		★重点計画の概要	
★目指す学校像（ビジョン）		第4次日野市学校教育基本構想「すべての“いのち”がよるこびあふれる今と未来をつくっていく力」の教育理念を基に、「地域と共に歩み、安心できる学校づくり」プロジェクトを推進し、みんなに居場所や出番がある地域の学校をつくる。	
【目指す児童・生徒像】 ◎確かな学力：自ら考え学ぶ子 「課題発見解決力」「表現力・発信力」 ○豊かな心：思いやる心をもち共に生きる子 「豊かな感性・創造性」「人間関係形成力」「自己肯定感」 ○健やかな体：健康でたくましい子 「健康な体・行動力」「社会貢献力」			
【目指す学校像】 みんなに居場所や出番がある地域の学校			
【目指す教師像】 ◆すべての“いのち”を守り、輝かせる教師 ◆児童一人一人を大切にしたい温かい学級集団をつくる教師 ◆地域と協働し、地域をステージとした、主体的に対話的な深い学びを創造できる教師 ◆生活科・総合的な学習の時間や特別支援教育の専門性や技能を身に付けた教師			

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準				学校評議員・学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策	
				評価点	取組指標	評価点	成果指標			
みんなが当事者として、自ら歩む道をつくる	学びの羅針盤・創造変化を起こすために自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動し、やり抜く	一律一斉の学びから自分に合った多様な学びと学び方を習得させる。	<ul style="list-style-type: none"> 児童が主体性をもち、自らの学習課題に深く関わろうとする意欲を高めさせる。 学力調査、ワークテスト等の結果分析による、指導法の改善、授業力向上を図り、個別最適な学び、協働的な学びの実践をする。 	4	4	自分の考えを書き、話合いで伝える場面を設定し、児童が自己評価を行う授業に取り組んだ教職員が90%以上	3	4	「授業中に問題を読んだり、聞いたりして、より分かるように考えている。」と答えた児童が90%以上	<ul style="list-style-type: none"> 視覚的に興味をもちやすい教材を用いるなど、授業に工夫がみられる。 夏休みのドリルを選択制にしたのは、各児童が主体的に取り組める対応だったと思う。具体的にはどのような取り組みで児童たちの意欲を自覚めさせているのか、保護者にも説明があると、家庭での声かけや学習にもつながると思う。 児童は真面目に授業を受けている。集中できる環境である。
					3	自分の考えを書き、話合いで伝える場面を設定し、児童が自己評価を行う授業に取り組んだ教職員が80%以上		3	「授業中に問題を読んだり、聞いたりして、より分かるように考えている。」と答えた児童が80%以上	
2	自分の考えを書き、話合いで伝える場面を設定し、児童が自己評価を行う授業に取り組んだ教職員が70%以上	2	「授業中に問題を読んだり、聞いたりして、より分かるように考えている。」と答えた児童が70%以上							
1	自分の考えを書き、話合いで伝える場面を設定し、児童が自己評価を行う授業に取り組んだ教職員が70%未満	1	「授業中に問題を読んだり、聞いたりして、より分かるように考えている。」と答えた児童が70%未満							
教職員の挑戦 目指す学校像に向け、チームとして挑戦し、成長を実感する	集団性とかかわり合いを重視する。		<ul style="list-style-type: none"> 学級・学年・異学年・地域との学び合いや交流活動を通して、自己のよさに気付いたり、自己の能力を伸ばしたりできるよう指導する。 教職員の児童理解力、集団マネジメント力を向上させ、自分や互いのよさに気づかせるとともに、より良い対人関係・コミュニケーションのあり方を学ばせる 	4	4	かかわりを通して友達のよさを見付け、伝え合い、互いを認め合い、高め合う関係をつくることに取り組んだ教職員が90%以上	3	4	「学校や普段の家庭生活で自分のよさを見付けた」と答えた児童が90%以上	<ul style="list-style-type: none"> 友達の「ここがすごい！」を発表し、シールを貼って掲示する等、日々、友達の良さを見付けやすくする工夫が素晴らしい。それが自分の良さに気付くことにもつながる。 「たきあいステージ」等、児童が主体となる機会は貴重な体験となり、自己の能力を伸ばすことにもつながると思う。 友達の良さに気付ける子は優しい子。まずは自分を好きになってほしい。
					3	かかわりを通して友達のよさを見付け、伝え合い、互いを認め合い、高め合う関係をつくることに取り組んだ教職員が80%以上		3	「学校や普段の家庭生活で自分のよさを見付けた」と答えた児童が80%以上	
					2	かかわりを通して友達のよさを見付け、伝え合い、互いを認め合い、高め合う関係をつくることに取り組んだ教職員が70%以上		2	「学校や普段の家庭生活で自分のよさを見付けた」と答えた児童が70%以上	
					1	かかわりを通して友達のよさを見付け、伝え合い、互いを認め合い、高め合う関係をつくることに取り組んだ教職員が70%未満		1	「学校や普段の家庭生活で自分のよさを見付けた」と答えた児童が70%未満	
みんなの多様な学びとしあわせをつくる	インクルージョン 自分と他者の多様な個性を認め合い、みんなが安心して表現し、失敗を恐れず挑戦する	すべての“いのち”を守り、輝かせる。	<ul style="list-style-type: none"> 特別な教科道徳、特別活動、総合的な学習の時間を中心に、児童が互いの多様性を尊重し合い、自尊感情を維持・向上させる教育の一環として、「いのちの授業」を実施する。 	3	4	学期に1回以上「いのち」をテーマにしたり、児童の自己肯定感が高まったりする授業に取り組んだ教職員が90%以上	4	4	「自分や周りの人を大切に生活しようとする気持ちが高まった」と答えた児童が90%以上	<ul style="list-style-type: none"> 学校は、道徳授業地区公開授業を通して、家庭・地域の教育力向上にも取り組んでいると思う。学校と家庭、地域が一体となつての道徳教育は、今後もさらに重要になってくると思う。 学校の長期休業中の飼育動物の対応をコミュニティ・スクールで議論し保護者・地域への協力の元飼育動物のいのちを大事にすることができた。 授業の中で各方面の方々と意見交換することは自己研鑽につながる。今後も家庭を巻き込み学びにつなげてほしい。 「すべてのいのちをまもる」という目標に対して成果が出ている。
					3	学期に1回以上「いのち」をテーマにしたり、児童の自己肯定感が高まったりする授業に取り組んだ教職員が80%以上		3	「自分や周りの人を大切に生活しようとする気持ちが高まった」と答えた児童が80%以上	
					2	学期に1回以上「いのち」をテーマにしたり、児童の自己肯定感が高まったりする授業に取り組んだ教職員が70%以上		2	「自分や周りの人を大切に生活しようとする気持ちが高まった」と答えた児童が70%以上	
					1	学期に1回以上「いのち」をテーマにしたり、児童の自己肯定感が高まったりする授業に取り組んだ教職員が70%未満		1	「自分や周りの人を大切に生活しようとする気持ちが高まった」と答えた児童が70%未満	
居場所・活躍 自分たちで考え、語り合い学び合い、対立を乗り越え協働する	居場所・活躍 自分たちで考え、語り合い学び合い、対立を乗り越え協働する	児童一人一人を大切にしたい温かい学級集団をつくり、児童の豊かな感性・創造性、人間関係形成力、自己肯定感を高める。	<ul style="list-style-type: none"> 校内体制を生かした不登校対策を行い、関係機関と連携を図る。 年3回「生活アンケート」、5年生「SCによる全員面談」、4年生「虐待防止授業等」や日常の児童の表情やつぶやきから不安を受け止め、迅速に組織的に対応する。 	3	4	全員の教職員が、いじめアンケートの丁寧な聞き取りと分析、迅速な対応を行った	4	4	友達にいじめや意地悪なことをせず、仲良くすることができた児童が90%以上	<ul style="list-style-type: none"> 小さないじめ(いじり、からかいの段階も含め)を見逃さない取り組みが、成果に表れていると思う。クラスを超えて、学年、学校全体での共有をさらに深めていってほしい。 仲良くすることはもちろん大事だが、我慢して仲良くするのではなく、自分の気持ちが話せるような関係性が構築できていくことを願う。 児童の悩みやトラブルに対し、教員は児童に向き合って対応している。
					3	いじめアンケートの丁寧な聞き取りと分析、迅速な対応を行った教職員が95%以上		3	友達にいじめや意地悪なことをせず、仲良くすることができた児童が80%以上	
					2	いじめアンケートの丁寧な聞き取りと分析、迅速な対応を行った教職員が90%以上		2	友達にいじめや意地悪なことをせず、仲良くすることができた児童が70%以上	
					1	いじめアンケートの丁寧な聞き取りと分析、迅速な対応を行った教職員が90%未満		1	友達にいじめや意地悪なことをせず、仲良くすることができた児童が70%未満	
社会と未来に開き、みんなでつくる	対話・協働 自分たちで考え、語り合い学び合い、対立を乗り越え協働する	「対話力」の向上と充実を図り、児童が主体的に学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 児童の思いや願いに根ざした探究学習を展開する。 校内研究を核として「対話」を大切に、児童が集団活動に自主的、実践的に取り組む中で、互いのよさや個性、多様な考えを認め合い、合意形成する経験をさせる。 	3	4	授業や家庭内での対話的活動を通して、児童の課題解決力・表現力の向上に取り組んだ教職員が90%以上	3	4	「自分の考えをもち、すすんで話すことができた。」と答えた児童が90%以上	<ul style="list-style-type: none"> クラスでの机の配置など、意見が出やすい雰囲気づくりが見受けられる。 すすんで話すことのできない子のフォローも大切である。担任が児童一人一人に向き合い、受容的な態度で接すること、また、教室環境の工夫により学級が安心の場となるようにすることを継続する。多様性の尊重、互いに認め合う風土を大切にしていこう。「滝合ステージ」で自己表現をする等、児童の内面の表出性を高める活動を推進する。
					3	授業や家庭内での対話的活動を通して、児童の課題解決力・表現力の向上に取り組んだ教職員が80%以上		3	「自分の考えをもち、すすんで話すことができた。」と答えた児童が80%以上	
					2	授業や家庭内での対話的活動を通して、児童の課題解決力・表現力の向上に取り組んだ教職員が70%以上		2	「自分の考えをもち、すすんで話すことができた。」と答えた児童が70%以上	
					1	授業や家庭内での対話的活動を通して、児童の課題解決力・表現力の向上に取り組んだ教職員が70%未満		1	「自分の考えをもち、すすんで話すことができた。」と答えた児童が70%未満	
多様な参画 様々な当事者から応援され、多様な人材が活躍する	多様な参画 様々な当事者から応援され、多様な人材が活躍する	地域と協働して、地域をステージとした学びを充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> 校内研究を核として生活科・総合的な学習の時間にて地域人材や地域環境を活用した体験的な学習を重視する。 コミュニティ・スクールの利点を生かして、地域と協働し、地域をステージとした主体的に対話的な深い学びを創造するとともに、学校環境(畑、田んぼ、芝生、ピオトープ等)を生かした活動や学習をする。 	3	4	地域人材と連携を図り、学習活動に取り組んだ教職員が90%以上	3	4	「地域の方と一緒に地域や学校環境を生かした学習に取り組むことができた。」と答えた児童が90%以上	<ul style="list-style-type: none"> 地域の一員として、学習活動(普遊び)に参加できたことに感謝いたします。 芝生イベントでは、地域の方が改めて地域の中にある学校の存在、可能性に気づき始めていると感じた。つながった人材を児童の学びにどう活かすか、学校を支えていく地域をどうやっていくかが次の課題だと思う。よりコミュニティ・スクール内での連携を深める必要性を感じた。 学習活動に地域人材や地域の環境を生かし、児童が主体的にそれらに関わっていく体験的、実践的な学習をさらに継続していく。 芝生活用イベントを始めて2年。コミュニティ・スクールの利点を生かし、芝生管理委員会を中心に、PTA、育成会、防災会、自治会等の多くの方が企画や運営に携わっているため、教員の負担はない。毎回多くの児童・保護者・地域の方の参加・協力がある。
					3	地域人材と連携を図り、学習活動に取り組んだ教職員が80%以上		3	「地域の方と一緒に地域や学校環境を生かした学習に取り組むことができた。」と答えた児童が80%以上	
					2	地域人材と連携を図り、学習活動に取り組んだ教職員が70%以上		2	「地域の方と一緒に地域や学校環境を生かした学習に取り組むことができた。」と答えた児童が70%以上	
					1	地域人材と連携を図り、学習活動に取り組んだ教職員が70%未満		1	「地域の方と一緒に地域や学校環境を生かした学習に取り組むことができた。」と答えた児童が70%未満	

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。